

市原市菊間

岡田（黒澤）家掛け軸

- ①尾崎紅葉書簡
- ②" 印譜
- ③国木田独歩書簡

平成 30 年 5 月

八幡史学館名所 100 選チーム
市原の古文書研究会

明治後期Ⅱ菊間・岡田家掛け軸
尾崎紅葉先生筆、印譜、国木田独歩先生筆（担当Ⅱ高澤恒子）

①尾崎紅葉書簡
再々御書状遣わされ御厚
情の段、感佩（かんぱい）に堪えず候、
先便申し上げ候通り、二十四、五
日頃出発の都合に致し
置き候ところ、突然新聞社
よりの依頼にて、秩父
地方まで出かけ申すことに
相成り、丁度二十四日に発足
致し本月一盃（ぱい）遊歴
候あいだ御地へ立ち越し候は
来月の初めに相成り申し候、
折角御待ち下され候に日
延べ致し候は、尤（もつと）も不本意
に存じ候えども社用なれ
ば是非これなく、その代り
来月に入り早々槍
が降つても出掛け候ゆえ
暫時御猶予成られたく候
田舎のことゆえ六々（ろくろく）との
仰せ越しに候えども、その田舎
が小生の望むところにて、実
は御地へ参り候ても旅

人宿はあるべくも、往来旅
籠（はたご）が大嫌いなれば、いかな
不自由の想い致し候ても
素人の家に起臥（きが）する

（下段）
が気安く且（かつ）趣味を感じ
申し候、御馳走にならん
とて旅行致し候にあらね
ば、決して御構い下されまじく、
また小生は大の無遠慮
にて驚くべきわがまま者
に候あいだ、余り構われぬ
方が勝手もござ候、
構つて下さりいでも独り
わがままを致し、気楽に
して居り候あいだそれさえ
御承知下され候えば御心配
は御無用にごさ候、
いまだ御用には掛けさせられ
候えども再三懇ろに御申し
越し下され候ゆえ、はや御
近付きのようなる心地
いたし御頼み申したく
存じ候、委細は拝顔
の節申し置くべく候。
草々

二十三日 尾崎紅葉
富井（宗之助）様
頓首

※ 井田晃（岡田昭男甥）様より以下のご指摘をいただきました。（2026/01/08）
最後の挨拶の近く：委細は拝顔の節 ← 委細は拝芝の節 では？
尾崎紅葉全集書簡集？を精査しますと、少ない事例ですが「拝芝」の使い方をしています。
書簡では、一般的な 拝顔、拝眉と読むことは難しいと思われます。
また、宛名の富井氏 書簡に名前の記載はありませんが、富井宗之助 ← 富井惣之助です。

②尾崎紅葉印譜
富井氏の帯(もとめ)に応ず 菊子(紅葉夫人)

③国木田独歩書状
すっかり暮れに相成り候、小生はまだ
文章世界で苦しみおり候、
先日空也の色紙、最中みな
美味この上なし、小生淡泊覚ゆえ
とくにありがたく感じ候、その後さつそく上野
への序(ついで)に少しばかり買わして受用
致し候、饅頭もうまし、
これは昨夜細君が四谷の岡野から
買い来たし十個の中の半分に使えども
甘党の君には万更(まんさら)でもなしと存
じお届け申し候。
(水野)葉舟兄 独歩

④上包み紙
尾崎紅葉先生筆 国木田独歩先生筆 東京下谷太田与之製幅
尾崎紅葉先生印譜 附未亡人菊子刀自添書
時に大正二年十二月 富井氏

⑤岡田(黒澤)さんの由来メモ
別紙コピー参照

尾崎紅葉(徳太郎)・国木田独歩の掛け軸について

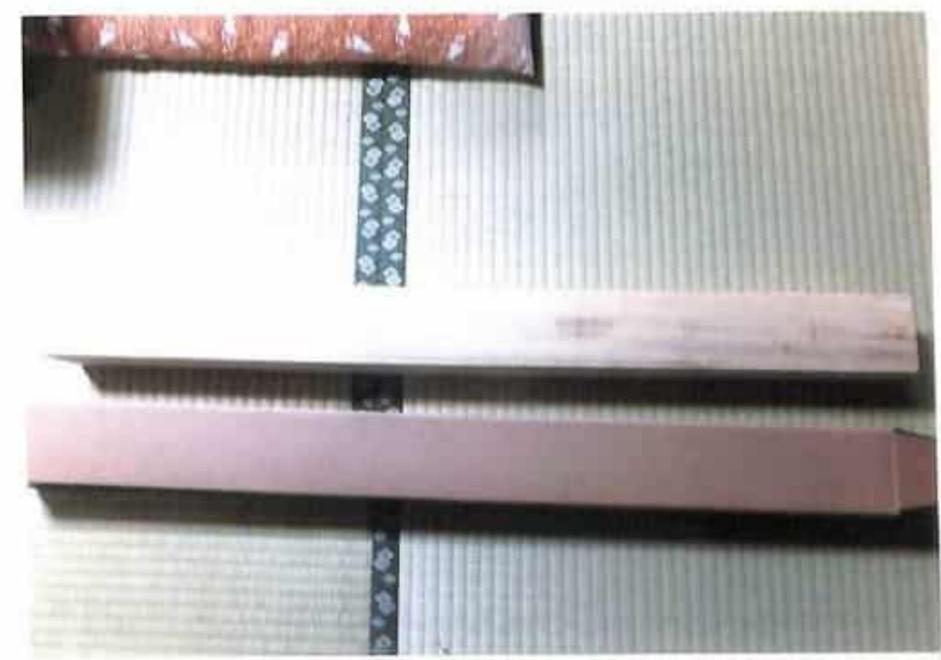
富井宗之助(明治2年生、幼少で逝去)が
長女、岡田俊(岡田茂生の妻)へ贈ったもの

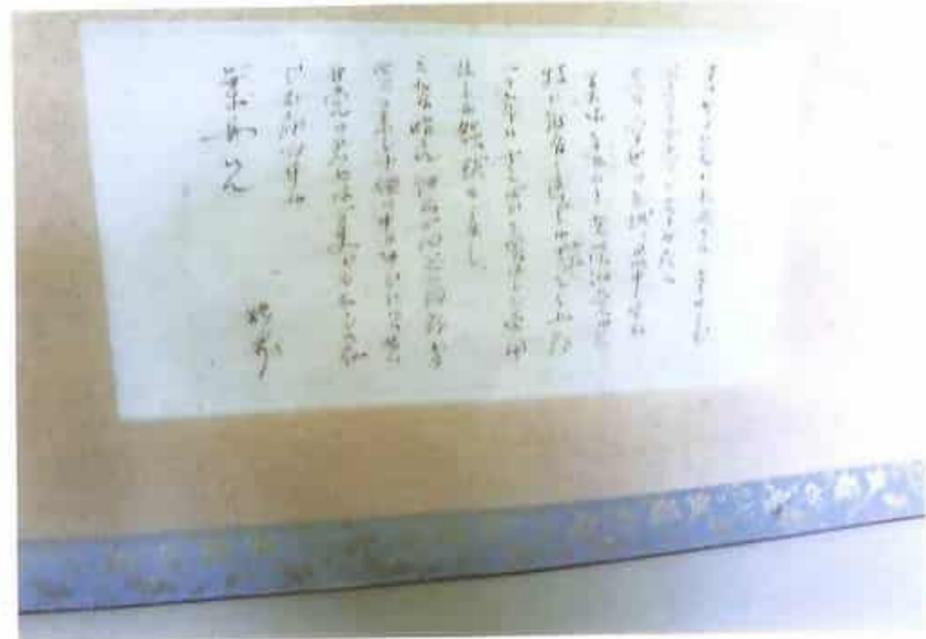
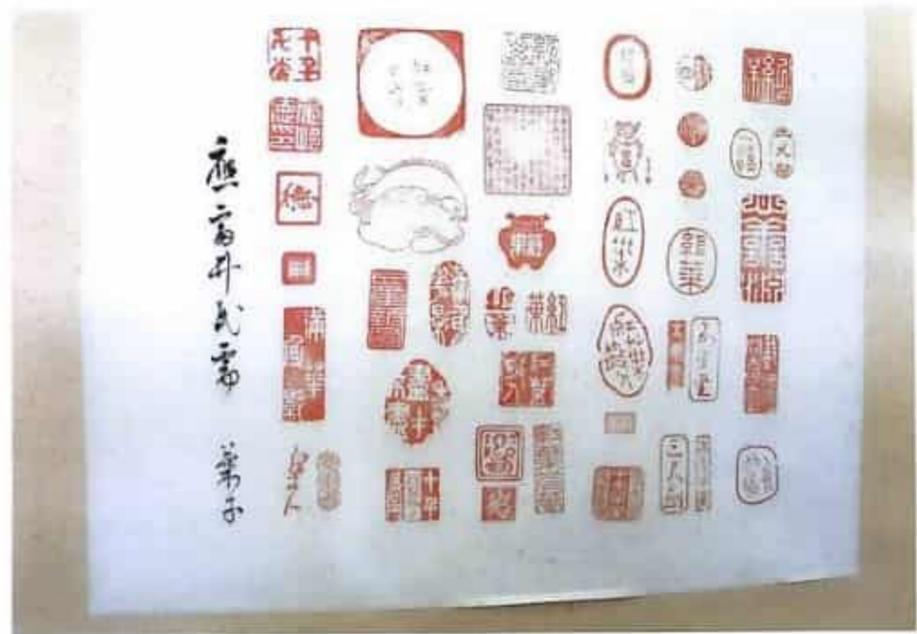
①尾崎紅葉からの富井宗之助宛の多数の
手紙のうち、紅葉が佐渡から帰ったら、
印籠の宗之助の家へ伺うという内容の手紙、
紅葉は、明治35年頃(金色夜叉執筆中)、
佐渡から帰ると富井家を訪れる。
一週内近く滞在、弟子を三人位連れていた。
紅葉は印籠沼あたりをよく散歩していた。
宗之助は、紅葉が37歳で亡くなるまで、
病氣お見えに舞に行ったりしていた。

②紅葉の妻、菊子夫人からの印譜

紅葉の印、全部を紙に押し取ったもの

③国木田独歩が水野葉舟に当てた手紙
最中を貰ったお礼に、お饅頭を十箇の
うち、幾つかをお返しに差し上げるとい
う簡単な内容。





一は古物にまはる
 之を國傳へる者
 一は古物にまはる
 之を國傳へる者
 一は古物にまはる
 之を國傳へる者

一は古物にまはる
 之を國傳へる者
 一は古物にまはる
 之を國傳へる者
 一は古物にまはる
 之を國傳へる者



一は古物にまはる
 之を國傳へる者

一は古物にまはる
 之を國傳へる者
 一は古物にまはる
 之を國傳へる者

ついでに...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...